

(公社)日本水道協会全国会議・研究発表会に参加しました(令和元年 11 月 6 日～8 日; 函館市 函館アリーナ・花びしホテル)。

会議は総会と特別講演、研究発表(水道に関する様々な分野にわたる488件の発表)が行われ、併せて会場に隣接して水道展も開催され、最新の技術や製品が紹介されていました。ここだけで日本の水道の今が実感できる貴重なイベントとなっており、と感じましたので、ここにその一部を報告させていただきます。

○特別講演「次の震災について本当のことを話してみよう。」講師 名古屋大学教授・減災

連携研究センター長 福和伸夫 氏

1. 歴史と災害の関係～改元や歴史的なイベントの影には必ず大きな災害があること。

また、歴史と災害の関係について様々な事例が紹介され、現代日本に新たな大きな災害が迫っていることが示唆されました。

2. 都会は災害に弱い

①エレベーターは地震に弱い。

②都会には発電所がなく、沿岸に発電所が立地しているため災害に弱く、都会は停電。

③台風 19 号では、上流で雨が降り下流の市街地が氾濫して被害が甚大となった。

④今年の台風でも防災計画の適切な運用や地下放水路等の防災施設が一定の役割を果たした地域もあった。

3. 次の震災までにできることをする

南海トラフ地震は確実に来ること。この地震により製造業は壊滅的な被害を受ける可能性があり、それは日本全体の危機に直結します。都市への集中を緩和し、中小企業対策、インフラの検証を行う必要があります。

4. 災害の事前対策ができる国へ

東京オリパラの終了後に直ちに実効的な災害対策に向けて国のあり方を根本的に変えていかなければならないと考えています。

5. 最後に

「見たくないものは見えない、見たいものが見える」(東大名誉教授 畑村洋太郎)が人の世の常です、この言葉をかみしめて、皆で災害のことを考えていきたいと思えます。

○水道研究発表会

部門別に事務 66 件、計画 43 件、水源取水 23 件、浄水 94 件、導送配水 97 件、給水装置 24 件、機械・電気・計装 25 件、水質 56 件、リスク管理災害対策 55 件、英語 5 件の発表が行われました。

私が参加した部門は計画、浄水、導送配水、事務などタイトルから興味のある発表を選んで聴講しました。特に計画部門の広域化に関しては参加者の関心が高く、満席になった上に立ったまま聴講する姿が多く見られました。

広域化に関しては多くの事例が発表されただけでなく、広域化指標の検討や広域化シミュレーションなどの研究も紹介されました。

広域化シミュレーションでは規模別に広域化パターンを設定してシミュレーションした場合、一定規模以上の事業体が周辺を統合するケースが最も経営改善に有効性があるとの研究結果が報告されました。

また、PI(JWWAQ100)の算出から広域化効果を比較するという研究も紹介されるなど、様々な広域化や PPP の検討が行われており、今後とも、最新の情報を確認しながら現実的な提案を提供していきたいと考えています。

文責 技術顧問; 高橋一美

株式会社ホクスイ設計コンサル

〒060-0806

札幌市北区北 6 条西 9 丁目 2 番地

☎ 011-737-6232 (本社/営業部)

FAX 011-708-5286

E-mail info@hokusui-p.com